中部経済新聞　（第三種郵便物認可）

道を創る　脱炭素社会へ

ビルメンテナンスのユタコロジー（本社名古屋市昭和区広路本町４の48）は、2020年に持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）宣言を打ち出すなど、環境に配慮した取り組みを推進している。エコチューニング技術者と呼ぶ脱炭素のスペシャリストを配置し、建物の快適性や生産性を確保しながら、設備機器の適切な運用改善などで、企業の脱炭素化を支援。脱炭素の活動により、他者との協働という新たな取り組みに波及するなど、企業価値向上にもつながっている。（山田悠）

ユタコロジー

20年にＳＤＧｓ宣言

エコチューニング技術者　建物の省エネ実現へ

ビルメンテナンス業務を通じ、脱炭素の取り組みを推進している（イメージ）

同社は1959年に創業した。企業のオフィスや自動車販売店などを顧客に持つ。2020年4月、ＳＤＧｓに賛同し、持続可能な社会の実現に努めることを宣言した。21年には「ＳＢＴ」と呼ばれる温室効果ガス排出削減目標の国際的な認定を取得。ビルメンテナンス業務を通じ、身近にできることから挑戦している。

具体的には、社屋で使用する電気を再生可能エネルギー由来に切り替えたほか、照明の発光ダイオード（ＬＥＤ）化、社用車のハイブリッド車推進、ユニホームや販売する除菌剤容器のリサイクルなどが挙げられる。

同社が手掛ける除菌剤では、容器のリサイクルに取り組んでいる

さらに取引する企業の管理部門やビルの管理会社などに対し、脱炭素化の支援にも取り組んでいる。

ユタコロジーには、酒井秀京社長を含め3人の第一種エコチューニング技術者が在籍する。第一種エコチューニング技術者は、建物のエネルギー消費状況や特性を把握し、エコチューニング計画を策定。助言しながら、省エネの実現に導くスペシャリストだ。

同社は、現地調査の上、予算や導入時期など、企業の要望に合った最適なプランを提案している。除菌や消毒、換気機能など、コロナ禍の環境を踏まえたメニューも用意する。

例えば、空調設備の改善では、空気の流れを測定し、空調の最適化を図る。また、フィルターの汚れを清掃したり、遮熱シールドの設置などに取り組む。

企業の脱炭素化支援

脱炭素という社会課題に取り組む中、これまで経験しなかった新たな取り組みに挑戦する機運も高まった。

昨年には、椙山女学園大学現代マネジメント学部の東珠実教授のゼミ生と、23年版の卓上カレンダーを制作するプロジェクトを実施した。仕事や行動力、起業などで輝く女性を取材し、さまざまな女性の生き方を紹介する内容だ。同社は女性比率が高いこともあり、奮闘する女性に光を当てようと企画した。

また、現在は長野県岡谷市と共同で、岡谷市のシルクを使った商品づくりを検討している。

酒井社長は「中小企業が脱炭素でやれることは限られる。ただ、脱炭素の取り組みをやり続けることで、新たに生み出されるものもある。本業に加え、さまざまな視点を持つことが中小企業の強みになると思う」と脱炭素化に取り組む意義を強調する。

2020年に開催した際のステージ

パソナJOB HUB「地域の人事部」

て行ったモデル事業で、茨城県日立市や静岡県三島市　活動の一環。冒頭、四日市工事事務所の姫野浩志所長